八幡太郎駒つなぎの桧……目通り五尋（一尋は大人が両手を広げた長さをいう）もある老樹で樹齢千年は下だらないといわれた。田圃の中に一〇坪余りの宮地が塚状になっているところに生えていた。村人は昔から「八幡太郎駒つなぎの桧」と称し、神木として崇め守ってきた。その周辺を「桧下」とか「八幡下」といって字名になっている。

大昔はその付近に墓地でもあったのか、副葬品らしいものと、田の中から「板碑」が一基出土した。碑高は三尺ほどの安山岩の自然石で、上部の梵字は「釈迦三尊」といわれる。刻字は磨滅して読めないが「孝子」の文字は判読できた。

その桧は古木のため幹が空洞になってムク鳥が巣をかけていたが、終戦の年の台風で倒れてしまった。相生の山桜も同時に倒れ枯れてしまった。何百年来、旅人の目標としてなつかしみ親しまれた名木も、このようにあっけなく倒れてしまったことは惜しい限りである。

八幡太郎が礼銭芦毛の駒をつないだという故事により、手倉では芦毛の馬を飼わないならわしがあった。駒つなぎの桧は御番所の近くで、東の山腹には菊地家の氏神（後に村社となった）「八幡神社」がある。